

2015年6月28日

「ビクター音と映像の保存庫」と「ビクター歴史館案」

平塚 直

1. はじめに

このたびビクター高柳会の「イ」の字90周年記念ページ編集事務局の方より、7月度に「音と映像の保存庫」の映像（23分）をアップするので一文を寄稿してほしいとの依頼を受けました。

わたしも久しぶりにその映像を見ました。このDVDはビクターの協力会社として約50年の永きにわたりご尽力くださった(株)湘南の稲葉社長がつくってくださった作品です。このほかに「大和工場お別れの集い」や「横浜工場のさようならイベント」の映像も同じDVDの中に入っています。「音と映像の保存庫」編には懐かしい「ビクター行進曲」が最初の方にBGMとして入っています。

2. 「音と映像の保存庫」の設立推移と現在の状況

- 1) 今から14年前の2001年7月、わたしが会の幹事を務めさせていただいておりました(品管)OB・OG会にて会のメンバーであります稲葉由美江様よりご主人の稲葉全彦様がビクターの協力企業として約40年のおつきあいの中で集められたビクターの名機や真空管など稀有な商品や部品を長野県白馬村の別荘に保管されており、これをビクター(会社)に無償で寄贈したいとお話がわたしにありました。

その後、白馬村の稲葉様の別荘に連れて行っていただき見せていただきました。わたしはその当時本社人事部で社内での仕事なくなった方のセカンドキャリアの相談や出向・転籍など再就職のお世話をしておりました。当時の専務取締役人事総務部長の山内さんにこの件について相談いたしました。寄贈のお話に前向きに対応しようとの回答をいただきました。

- 2) 寄贈していただく品物の受け入れ時期や保管場所のこと、そして保管場所の改装工事や寄贈展示品の説明員(アドバイザー)の手配や謝礼などの検討を行いました。説明員については当時寿会会長を務めておられた高橋 廣さんにお伝えし、協力を依頼したところ快諾をいただきました。

- 3) 2002年から2004年にかけて、ビクターの経営(業績)は更に悪化し、工場などの資産売却と早期退職募集が断続的に実施され、寄贈品の保管場所と改装設置費用約1,000万円の捻出が困難な状況にありました。この予算措置に3年の月日を要しました。

4) 2004年に入り、当時の総務部長の堀さんが早期退職に応募され後任に坂口さんが就任されました。この頃、今の時期を失したら稲葉さんからの「志し」の受入が困難になるとの判断をし、懇意にしていたいただき総務部長坂口さんにおねがいし、会社上層部を動かしていただき、保管場所を大和工場の旧技術ビル1Fとし、これを改装、名称を「ビクター音と映像の保存庫」と決定、白馬村にあった名機や部品を大和工場に移送・展示し2005年5月18日に大和工場 旧技術ビル1階にて開所式を行ないました。

開所式には会社から平林さん・土屋さん・山内さんの三人の役員(専務取締役)、労組から当時の書記長の君塚さん、寿会から当時会長の高橋さんとアドバイザーの皆さんにご出席いただきました。

5) 開所後の具体的な運営については、当時寿会会長の高橋 廣さんに全面的ご協力をいただきました。最初の説明アドバイザーとしましては西野保夫さん、佐藤滋樹さん、臼杵謙介さん、佐々木一三さん、渡辺信久さん、荒木博さんやVSE出身の石垣さんなどOBのご協力をいただきました。以降2008年までの3年間は広報室に協力していただき「ビクター社内報」に掲載するなど社内PRに努めました。また寿会ニュースや寿会の総会など行事の際、会長の高橋さんに大いにPRをしていただきました。

6) 2006年から2007年にかけてビクターに更なる暗雲が立ち込めてきました。業績悪化に対処すべく当時の寺田社長は経営権は残し、資本の譲渡と注入を意図しましたが不調に終わり、ついにはファンドをバックにKENWOOD社をリストラに次ぐリストラで黒字転換した東芝元常務の河原 KENWOOD 社長がビクター再建の指揮をとることに至りました。当時のパナソニック首脳陣(中村さん・大坪さん)がビクターのこれから経営を河原社長に託し、ビクター・ケンウッドを統合しホールディング会社にするという結論にいたり2008年10月にJVCケンウッドホールディングスとなりました

7) 経営再建の旗印のもと進められたリストラにより「音と映像の保存庫」も影響を受けました。「音と映像の保存庫」があった大和工場も売却の対象となり、展示機材については関係者が移送費用が単独で発生しないよう知恵を絞り、大和工場から横浜工場へ移転する事業所の引越シトラック便に、もぐりこませ水面下で横浜工場の旧レコード工場の一角に移動保管しました。

8) ほっとしている暇もなく、2010年には保管した本社横浜工場も売却となり、総務部長の坂口さんも早期退職された。そこで坂口さんが総務グループ長の石井さんにいままでの経緯を話し引継ぎをしていただきました。石井さんは寿会会長の高橋さん・稲葉夫妻と面談、前橋工場に移すことにしましたとの説明をされた。そのあと、わたしも石井さんとお会いし前橋移送の経緯の詳細をお聴きしました。保存庫の前橋移送についてはコストを含めて常務会にかけ説明し、常務会の了承を得たとのお話がありました。

9) 2011年9月、前橋工場玄関より入った左側にある旧ラジオ録音機事業部のヒット商品が展示してある奥のスペースに、梱包状態のまま保管されていることが、寿会上信越支部白井支部長から高橋 廣さん宛の手紙で確認されています。

10) 保管されている商品リストは大和工場に「音と映像の保存庫」があった時点のデータでは「408品種 578点」との報告を当時の説明員アドバイザーの西野保夫さんからいただいております。現在の前橋工場の保管品の実態はわかっておりません。

3. ビクター歴史館設立 (案)

約50年前にビクターという会社にご縁があって入社し、品質管理部にいたことで今回の「音と映像の保存庫」に関わった者の想いとして「ビクター歴史館」設立案としてその設立趣旨についてお伝えいたします。

1) 4年前の2011年10月 JVC KENWOOD ホールディングス傘下の事業会社としての、日本ビクターの社名が新会社発足を機になくなった。このことはビクター犬のマークに憧れと希望をもって入社し、働いてきた現役社員はもとより、戦後の混乱期、会社のオーナーが変わり給与もレコードの現物支給の時代に入社された大先輩をはじめ、ビクターレコードのヒット歌手続出やステレオのヒットで経営を支えた昭和30年から40年代、そして純白カラーテレビの一世風靡、世界が認めたビクターが開発し世界のデファクトスタンダードとなり、NHK番組で高視聴率と感動を呼んだ番組「プロジェクトX」や「陽はまた昇る」の映画にもなったVHSビデオなどビクター社員、OBにとってはまさに痛恨の極みの出来事でした。

国内のみならず世界のビデオ文化普及から発展の昭和50年代から60年代前半はビクター全盛の時代でした。平成に入り今年は早や27年になりますが、昭和最後の年にオーナー松下幸之助さんが亡くなられて以来、各位のご努力にもかかわらず、業績は下降の一途をたどり、ビクター商品は電気店の店頭から見られなくなり、4年前株式市場から姿を消し、本社横浜工場の売却、ビクター社名の喪失に至りました。

2) わたしの提案はひらたくいえば、ノスタルジアではなく現役の方の苦労や諸先輩の汗と努力の結晶、おおげさに言えば「人生そのもの」であったと思われるビクターの「栄枯盛衰」の歴史を「歴史館」というかたちで、ビクターの「精神」というか「魂」を後世に残すことができないか・・・と考えたわけです。

3) ビクターのOB・OGそして協力していただいた協力工場や関係会など心の故郷として、そしてビクター・JVC「大和一致」精神の象徴として「ビクター歴史館」を建設し後世まで残したいと思います

あわせ80余年にわたるビクターの事業の成果(社会貢献)を国内外の人々に伝えたい。そしてビクターに「縁」のあった人々の、これからの求心力の「要」にしたい。ビクターの社名もなくなり、今後復活の見通しもありません。そこで社会貢献活動の一環として、ビクターの社是であり、経営理念である「文化に貢献 社会に奉仕ビクターマーク

は世界のマーク」および「技術に生きるビクター」の社会貢献の実績（足跡）をハード・ソフトの両面で海外も含め広く世の中の人々に知ってもらいたい。そのための「場」としたい。

- 4) 歴史館の展示品として映像でご覧いただいた「音と映像の保存庫」の品物があります。久里浜の研究所には高柳先生関連の貴重な品物があります。横須賀工場には高野さんが造られた「VHS記念館」に貴重な品物が展示されております。
この3つを統合したいと思います。

5) 具体策

- (1) 賛同者がおられれば有志で展開策について意見交換をおこなってまとめていきたいと思います
- (2) 寿会・ビクターシニアクラブ・高柳会などOBの代表の方がJVCケンウッドと話し合いをもって上記の品物をもらいうける。（所有権の移転）
- (3) 併行して品物の受け入れ場所について
 - ・土地を寄贈してくださる方を探す
- (3) 建設資金については寄付を集める

など大まかなステップを考えております

以上